

・ Nepean Hospital (Sydney University) Obstetrics&Gynecology

2 月中旬～3 月中旬の 1 か月間、Kingswood, Sydney の Nepean Hospital で Obstetrics&Gynecology の実習をさせていただきました。

〔準備〕

Sydney University への留学には、TOEFL88 点以上が必要です。受け入れはもっと早くからはじまっていますが、なんだかんだで忙しく、僕が実際に試験を受けたのは 8 月末で、結果が出たのが 9 月末ごろで、結構ギリギリになってしまいました。早めから準備して余裕をもって応募した方がいいと思います。おそらく 4 月とか 5 月には目標となる点数をとれるように準備しておいたほうがいいのではないかなと思います。試験はそんなに難しくはないですが、単語をいろいろ覚える必要があったのでそこが大変でした。東大の英語をやってきた人なら、reading, writing は問題なくできるでしょう。Listening のトレーニングをして、できる限り speaking の点数を上げてという点の取り方が効率が良いのではないのでしょうか。

他には、観光ビザの取得、犯罪証明書の取得をする必要があります。ワクチンは大学で受けたもののほかに受ける必要のあるものがあるので、保健センターなどで接種が必要です。また応募が完了すると多くの書類を記入して提出する必要があるため、そちらのほうも早めにやりましょう。結局僕は、10 月ごろに Sydney University から国際交流室にきた応募枠に応募して受け入れてもらうことができました。

〔実習〕

Nepean Hospital は、Sydney 中心部から電車で西に 1 時間ほどの場所にあります。おそらく多くの東大生が行くのは中心部の Sydney University 関連病院だと思うので、Nepean Hospital は有名でないと思います。(Staff にも、日本人の学生を見たのは初めてだとか言われました)。地方の総合病院といった感じで、様々な診療科がありました。診療体制はいいものだったと思います。施設は、いろいろ電子化されておらず、そこが少し不便だったかなと思いました。患者数は日本のほうが多かったと思います。(そもそも人口がそんなに多くない) 院内の恰好は、白衣は誰もきておらず、聴診器を持って、男性ならシャツに長ズボン、女性はもっと自由な感じで診察等を行っていました。そういう自由な感じは僕自身は結構気に入っていました。



【病院の看板】

Obstetrics & Gynecology では、外来見学と Surgery、Birth Unit が中心でした。入院はほとんどなかったです。外来は、Gynecology, Urogynecology, Colposcopy, ANC, AGS と多岐にわたり、ultra sound をやらせてもらえたり、speculum を入れたり、子宮頸がん検診をやったりと手技もいろいろとやらせてもらえました。オペは基本的に見学で、Laparoscopy, Urogynecology surgery, Caesarean section を見学しました。手洗いのテストがありましたが、結局手洗いすることはありませんでした。Birth Unit では、分娩を見ることができ、midwife の方々が生まれそうになると読んでくださったりして、様々な分娩を見学できました。

全体的には日本と大きくは変わりませんでした。Urogynecology という分野は、日本ではあまり盛んでなく、新たな発見があったので何度も見学に行かせてもらいました。ほかには、上級医と resident の距離が近く、外来中でも不確実なことがあればすぐに上級医に相談に行ったり、毎回の外来終了後に Professor がその日の画像診断などをみながら一例一例 review をされていて、指導の面ではかなり充実していると思いました。実際、アジアや東ヨーロッパからトレーニングに来ている resident がたくさんいてびっくりしました。

Duty として、毎日の実習内容を diary として記録して提出することが必要でした。何を

したかや、見た患者のまとめなどを記載していました。

病院では定期的に内科グラウンドラウンドが開催されており、昼食が出てそれを食べながらレクチャーを聞くというスタイルのものでした。無料でランチが食べられるということもあり、**overseas student** がたくさん参加していました。いろいろな科の医学英語を学べる点で、よかったと思います。

結局のところ、**Sydney** でエレクトィブクラークシップを行うことのメリットは、一番は医療に英語で触れられるというところでしょう。**Sydney** には世界各国（特にヨーロッパ）から同じように **overseas student** がたくさん来ており、彼らからその国での医療のことなどをいろいろと聞いて刺激を受けたり、逆に日本の医療や文化を説明したりという経験は海外で実習をしないと得られないものだと思うので、日本に戻ってきてからも自分の大きなモチベーションになっています。

〔生活〕

Sydney はエレクトィブクラークシップの時期は夏なので、かなり気温は高いです。半袖短パン+日焼け止めクリームで普段は過ごします。日焼け止めクリームがないと、街を歩いているだけで思いっきり日焼けしてつらいです。あとサングラスがあるといいと思います。

主な交通機関は電車です。かなり交通網が発達しているので電車だけでいろいろな所に足をのばせると思います。

クレジットカードは基本的にはどこでも使えますが、**VISA, Master Card** しか使えないところが多いので注意が必要です。**JCB, American Express** はほぼ役立たずでした。

Nepean Hospital は郊外にあるので、**overseas student** は全員病院から徒歩5分くらいの寮に泊まります。週150ドルです。一部屋2~3人で共有で、各人個別の寝室があります。クーラーはないので扇風機でしのぎます。好き嫌いあると思いますが、僕はこの寮の制度がすごく良かったと思います。市内の病院だと、各自宿泊先を手配してという感じになるみたいですが、寮だと自然と **overseas student** 同士仲良くなって、非常に有意義な友人関係を築くことができました。皆で動物園に行ったり、国立公園に行ったり、フィッシュマーケットに行ったり、サーフィンをしに行ったり、ドライブに行ったり、オペラを見に行ったりと充実した週末を過ごすことができました。また、誰かが帰国するときには、お別れパーティーを開いたり和気あいあいと過ごすことができ、楽しかったです。驚くことに、病院併設の **school building** では、パーティールームが備え付けられており、そこを利用していました。



【寮の共同スペース】



【寮の寝室】

Sydney では外食費がかなり高いです。普通に食事をとると 3000～4000 円くらいかかります。平日は近くのスーパーで食材を買って自炊が基本スタイルでした。生活力はあがると思います。ほかの海外からきている人は、非常に自炊力が高くてびっくりしました。近くのスーパーマーケットには日本食材がなかったので、Parramata という駅にアジア系のスーパーマーケットがあったのでそこまで買い出しに行ったりもしました。ダイソーもあ

りました。



【学校のパーティールーム】

また、オーストラリア東部は飛行機で各都市がそれほど遠くないので、金土日を利用して旅行に行っている人がたくさんいました。Cairns, Gold Coast, Brisbane, Canberra Melbourne といったところが有名でしょうか。僕も Melbourne にいきました。Jet Star などの LCC が運航しているので安く行けると思います。

実習終了後は、1週間くらい予定に余裕があったので、Cairns にいきました。観光、シュノーケリング、ダイビング、乗馬のようなアクティビティを楽しむことができます。ただ、Sydney, Melbourne と比べて観光できている日本人が多く、せっかくオーストラリアに来ているのに、と少し残念でしたが、その他の点では最高でした。Great Barrier reef はさすが Great というだけあり、とてもきれいな海を楽しむことができ満足でした。

このようにオーストラリアは、実習で充実した医学の勉強を行えるだけでなく、オフを満喫できるだけの広大な環境を兼ね備えた素晴らしい国だったと思います。海外で実習を考えている人は、ぜひ候補の一つに入れてみてください。そして、市内の病院ではなく、Nepean Hospital を選べば、普段の東京の生活とは一味違ったものを十二分に味わえると思います。

最後になりましたが、今回の実習でお世話になりました丸山先生、Nepean Hospital のスタッフの皆さん、また Sydney でともに過ごした overseas student の皆さん、貴重な経験を与えてくださってありがとうございました。この経験を活かせるように精進したいと思います。